みやぎ森と緑の県民条例基本計画の取組状況と目標達成状況(1)

【概要】

ICTを活用した木材需給

苗木運搬ドローン導入支援

測量用ドローンの実証・導入支援

システムの開発支援

林業・木材産業の一層の産業力強化

主な施策の実施状況

①産業力の強化を図るため、川上側の高性能林業機械導入(生産性向上)を支援 しているほか、川下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備(高付加価 値化・競争力強化)を支援した。



フェラーバンチャ

高性能林業機械等導入支援 木材加工流通施設支援



フォワーダ

③木材需要の創出を図るため、宮城県CLT等普及推進協議会と連携し、様々な

木材乾燥機

②林業のスマート化に向け、木材需給調整システムの開発・実証の支援、測量・ 苗木運搬用ドローン導等の購入を支援した。



ICTを活用した木材需給調整システム

(土場から出荷情報を入力するタブレット) 測量用ドローン

④木質バイオマス利用の促進を図るため、地域森林由来の未利用材の運搬・搬出経費 を支援した。

未利用材の運搬・

ネットワーク形成支援

搬出経費補助



県産CLTベンチ(仙台駅東口

JRイーストゲートビル内)

内外装の木質化の支援

県産材利用住宅支援

対し支援した。

⑤木材利用の促進を図るため、公共性の高い民間施設等

における木質化や、県産材を使った木造住宅の建築に

場面での建築等におけるCLT活用に向けた取組を支援した。

CLT活用技術の開発や住宅プランの作成 モデル施工



CLT集合住宅

CLTを活用したブロック塀



小型木質バイオマス熱電供給施設

⑥森林経営計画の策定率向上に向け、森林所有者や林 業事業体等による施業・経営の集約化を支援すると ともに、林地台帳の整備支援や、市町村等との情報 共有化を図るためのクラウドシステムを導入した。



県産木材を使用した住宅

【概要】

・森林情報の適正化 経営計画策定支援



森林経営計画作成に向けた打合せ

③松くい虫被害から特別名勝「松島」地域等の重

4)山地災害の未然防止や、令和元年東日本台風で

被災した森林等の復旧のため,治山対策を計画

栽し松林の再生と景観保全を図った。

要な松林を守るため各種防除対策を推進してい

る。また、被害跡地に松くい虫抵抗性マツを植

伐倒処理

• 薬剤空中散布

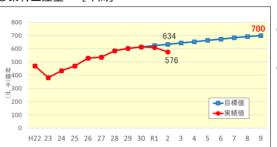
薬剤地上散布

• 薬剤樹幹注入

抵抗性マツ植栽

主な目標指標の達成状況

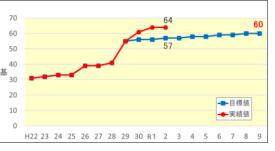
◎素材生産量 [年間]



○ 令和2年度の目標値634千m³に対し て、実績値で576千m³となった。

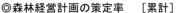
O 新型コロナウイルスの影響による一時 的な減少はあったが、木材加工工場の設 備投資や林業事業体の高性能林業機械の 導入が進み、概ね目標値を達成してい

◎木質バイオマス活用施設導入数 [累計]



〇 令和2年度の目標値57基に対して, 実 績値で64基となった。

○ 再生可能エネルギーへの関心の高まり を背景に、施設導入数が増加し、目標 値を上回る結果となった。





令和3年度の目標値40%に対して、実 績値で27%となった。

人工林が利用期を迎え,主伐が進む一 方,主伐後に新たな計画策定が進まず, 目標値を大きく下回った。

○ 令和2年度の目標値5,600haに対し

〇 人工林の約8割が本格的な利用時期

を迎えてきており、間伐が真に必要な

林分は限られつつあるとともに、集約

化等による間伐の低コスト化も十分に

図られていない。また, 労働力不足も

て. 実績値で3.366haとなった。

要因と考えられる。

森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

主な施策の実施状況

②人工林伐採後の再造林を推進するとともに, 造林コス

トの低減を図るため、「伐採と造林の一貫作業システ

①森林の二酸化炭素吸収機能や水源涵養機能などの公益 的機能を高度に発揮させるとともに、旺盛な木材需要 に応えていくため、間伐や路網整備を支援した。

【概要】

- 間伐 ■ 路網整備
- ·補助率見直し



高性能林業機械による間伐







• 防鹿柵設置

ム」の普及などに取り組んだ。

一貫作業システムによる再造林の普及

一貫作業システム検討会







高性能林業機械による伐採 コンテナ苗による造林 伐採浩林の一貫作業システム



抵抗性マツ植栽

治山施設 (治山ダム)



治山施設 (山腹工)

主な目標指標の達成状況



◎松くい虫被害による枯損木量 [年間]



〇山地災害危険地区 (Aランク) の治山工事着手率



O 令和2年度の目標値13,453haに対し実績 値は10,151hameと上回っている。

O 気象条件によっては再び増加に転じる おそれもあることから、引き続き市町村等 と連携しながら防除対策を徹底し、更なる 被害の低減を図っていく必要がある。

[累計]

- 令和2年度の目標値51%に対し実績値は 49%となっている。
- 近年自然災害が頻発化・激甚化しており、 その都度被害箇所を山地災害指定地区に 指定していることから、Aランク地区数の母 数は増加している。



間伐材の搬出

林業専用道の開設